



「スピカ」は農業の女神である乙女座の1等星です

Vol.464

3・4月号

MARCH

3

APRIL

4

生活クラブ

〒333-0857

埼玉県川口市小谷場 206

TEL 048-424-2763

FAX 048-424-2796

2022年

3月1日発行（隔月発行）

特集

3・11を忘れない

～私たちは変わったのか～



☆ 表紙の料理 ☆

醤油香るしらすチーズトースト

(レシピは6ページに掲載)

組織数と利用

- 1月末組合員数 組合員数 35,219名 共同班 5,434名 個配 27,070名 デポー 2,715名 対期首(2021年4月～) +639名
- 利用高(2022年1月1回～1月4回) ※展示会除く 総額 632,322千円 世帯当たり平均 19,565円 共同班平均 16,948円 個配平均 20,112円



福島第一原発事故直後の様子 出典：東京電力ホールディングス



3・11を忘れない ～私たちは変わったのか～

東日本大震災直後、私たちはさまざまな不安にかられ右往左往していました。計画停電があり節電をしようとしたこと、家族と避難経路を確認したこと……。しかし、今はどうでしょう。記憶が薄れてきていませんか。震災後10年の節目にこれまでを振り返り、これからについて考えてみましょう。

被災地支援

震災後、手探りの中で始まった支援活動は、当初の未組織のボランティアを経て、カンパを中心とした支援へと形を変えながら続けてきました。また、支部やブロックではそれぞれの形で学びや交流を含めた支援を行っています。2012年度から「復興支援」の政策方針を設けて取り組んできた私たちの活動は、10年を経た今、これからのありようが問われています。



宮城県名取市関上（ゆりあげ）地区の被災者による講演会「あの日のことを忘れない関上の記憶」



ソーラークッカーやポリ袋調理など災害時を想定した調理講習会を開催



被災地での泥のかきだし支援（上）
物資の搬送トラック（下）



甲状腺検査を行い、被曝地の健康被害を明らかにするとともに、子どもたちの健康と未来を守る活動



カンパ金の一部は、漁船建造の費用や地域共生創造財団を通して被災地中間支援活動（就労支援・見回り訪問・生活相談）を行うグループにも使われました



福島のリンゴ農家農園を訪問。支援と交流を続けています



支部やブロックが被災地で暮らしを営む親子を埼玉に招待するリフレッシュツアー



ひまわりを育て、種を取り被災地の障害者を支援する運動「ひまわりプロジェクト」。複数の支部が参加しています



未来へつなげるエネルギーアクション!



脱原発、再生可能エネルギーを求める署名活動



埼玉本部・全配送センターの屋上に太陽光発電パネルを設置



脱原発への想いを形に。建設された風車「夢風」は、生活クラブでんきに電力を供給しています。現地との交流も広がっています

脱原発・再生可能エネルギー

あの日、広島の前爆168発分(セシウム137の量)に相当する放射能を大気中にまき散らした原発事故。汚染されたままの山、取り除けないトリチウム汚染水。地震大国の日本に原子力発電所があってもいいのでしょうか？だから、私たちは再生可能エネルギーをひろげ、「生活クラブでんき」をすすめます。

災害への備え

私たちは、自然の恩恵を享受するだけでなく、時にその脅威にさらされることがあります。自然と共生するためには備えも必要です。過去の災害について学び、回転備蓄や災害時のシミュレーションをするなど、できることはたくさんあります。



埼玉へ避難している方たちの情報誌「福玉便り」発行に寄付

あの時、多くの人がこれまでの常識を揺さぶられた。その時、動いた感情を行動に結びつけ継続することが忘れないということだ。事故は終わっていない。被災は続いている。私たちは、変わり続けていこう。「忘れない」をこえて共に生きるために。

『東日本大震災 復興支援活動10年のまとめ… つながる、つづける、ともにゆく』
震災から10年の節目に、生活クラブのこれまでの活動をまとめたものです。



← WEB版はこちら



生活クラブ